



 **コベルコシステム株式会社**  
KOBELCO SYSTEMS CORPORATION

<http://www.kobelcosys.co.jp/>

本 社：〒657-0845 神戸市灘区岩屋中町4丁目2番7号 シマブンビル  
東京本社：〒141-8688 東京都品川区北品川15丁目9番12号 北品川IONビル

発 行：コベルコシステム株式会社 CSR推進委員会  
(事務局 TEL. 078-261-6001 FAX. 078-261-7520)

本誌は、印刷・製本に関して以下のような配慮を行っています

印刷に関する配慮



印刷工程において有害廃液を出さない「水なし印刷」を採用しています。

用紙に関する配慮



森林管理協議会 (Forest Stewardship Council) から認証を受けた適切に管理された森林からの原料を含むFSC認証紙を使用しています。

インクに関する配慮



環境負荷の少ない植物油インクを使用しています。

# CSR Report

Corporate Social Responsibility

## 2018

 **コベルコシステム株式会社**  
KOBELCO SYSTEMS CORPORATION

## トップメッセージ

コベルコシステムは昨年、設立30周年という節目の年を迎えました。次の節目に向けて新たな一步を踏み出すにあたり、今後どのような会社を目指すべきかを検討し、長期経営ビジョンを『Be a Trusted Partner』と定めました。このビジョンには、当社が真のパートナーとして、“お客様にとってなくては困る会社”、“お客様とともに成長する会社”、“社員が誇りを持てる会社”を目指すという思いが込められています。

この新たな長期経営ビジョンを念頭に置いて、今年から始まる3か年の中期経営計画「Get Trust! 2020」もあわせて策定しました。本中期計画では、成長戦略、リソース戦略、技術戦略、経営基盤強化戦略からなる事業戦略をまとめ、特にビジネスの基盤となる人材の確保と育成を最重要課題として取り上げるとともに、必要な投資をしっかりと実行して将来に向けた変革への足固めを行うことを狙っています。

今、世の中では、デジタル・トランスフォーメーションというITを前提とした非常に大きな変化がまさに起こっており、お客様自身もそこへの対応を重要な課題と捉えられています。

その中で、当社がIT活用の側面からお客様の真のパートナーになっていくためには、クラウドやセキュリティ、IoT<sup>(1)</sup>、AI、RPA<sup>(2)</sup>など新技術への対応力の向上はもちろんのことですが、当社の社員一人ひとりの意識改革と行動変革も重要な課題であると認識しています。

また加えて、昨今、特にコンプライアンスの遵守が求められており、企業として存続するための大前提となっています。当社ではビジネスを進めるうえでの各種の規程やガイドラインを整備しておりますが、これらの意味を正しく理解し、遵守することの大切さを社員に繰り返しリマインドし、その徹底に努めています。

これからも当社がお客様をはじめとするステークホルダーのみなさんとともに発展し、50周年、100周年を迎えられる会社になっていきたいと考えています。

代表取締役社長

田野美雄

※1 IoT: Internet of Things (モノのインターネット)

※2 RPA: Robotic Process Automation (ロボットによる業務自動化)

## Contents

### CSRの取り組みについて

- 03 「卓越した経営」を目指して
- 05 コベルコシステムのCSRの取り組み
- 07 **特集1** 会社設立30周年 これまでとこれから  
30年の歩みと記念イベントの開催  
新 中期経営計画 (2018~2020年)
- 09 **特集2** 神戸製鋼グループへの貢献

### お客様とともに

- 11 お客様から信頼されるパートナーになるために
- 13 セキュリティなくしてビジネスなし
- 14 品質向上活動に終わりはない
- 15 新たな付加価値を創出するために
- 16 外部からの評価

### ビジネスパートナー様とともに

- 17 公正なパートナーシップの維持

### 社員とともに

- 19 人材育成の仕組み
- 22 社員と組織の絆を深めるために

### 地域社会とともに

- 23 環境保護活動
- 24 社会貢献・地域貢献活動
- 26 会社プロフィール / 沿革 / 編集後記

#### 【報告対象期間】

2017年1月1日から12月31日の1年間の活動を中心に記載しています。一部につきましては、対象期間以前からの経緯やCSRレポート発行時直近の事項についても記載しています。

# 「卓越した経営」を目指して

## コベルコシステムの経営理念

私たちコベルコシステムは、お客様と「夢」を共有し、  
確かな知識と卓越した技術によるITソリューション/サービスを通じて、  
お客様の発展とチャレンジに貢献し続けます。

この経営理念は、2006年に若手・中堅社員の代表30人が検討し、全社員が共有する当社の未来像として策定しました(当初は経営ビジョンと呼称)。お客様の発展とチャレンジに貢献するため、お客様の「こうありたい」という夢を共有し、実現し、お客様に喜んでいただくことが、私たちの夢であり、使命であると考えています。

また、これまで現場の経験で培ってきた優れた品質や高度な技術、それを支える確かな業務知識やIT専門知識、そしてお客様

の夢の実現に必要な「知恵」を駆使することで、お客様の期待を超えるソリューション/サービスを提供し続けたい。経営理念にはこのような想いが込められています。

社員自らが作った経営理念を掲げて、コベルコシステムは「常にお客様の立場に立った行動、ITのプロフェッショナルとしてのお客様への貢献、そしてお客様と夢を共有できる会社」を目指しています。

## 中期経営計画 (For High-Value 2017) 2017年の成果

お客様から信頼され、選んでいただける会社であり続けるために、2015年から中期経営計画“For High-Value 2017”を展開してきました。

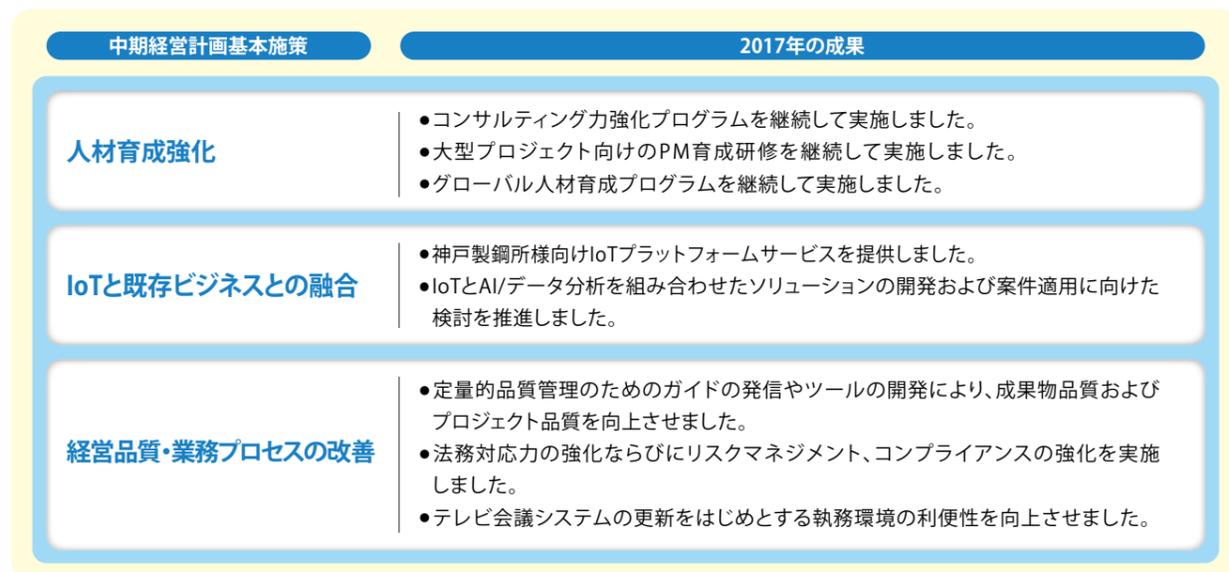
高価値化を実現するビジネスの創発、人材育成、社員の行動変革を促す仕組みづくりに経営資源を集中投下し、「価値の

創造 ⇒ 高価値の提供 ⇒ 収益向上 ⇒ さらなる価値の創造」のスパイラルを作ることにより、お客様に高価値をご提供する High-Value Company を目指してきました。

中期経営計画の基本施策に基づく2017年の成果は、以下のとおりです。

# For High-Value 2017

～Innovation For High-Value Company～



## マネジメント・経営品質

コベルコシステムのマネジメントは、「常にお客様満足の追求を経営の中心に置き、組織・プロセスを変革する」という考え方を基本としています。

コベルコシステムでは、経営品質向上プログラム<sup>(※)</sup>の「顧客本位」「独自能力」「社員重視」「社会との調和」の4つの基本理念を軸に組織プロセスの変革に取り組んでいます。

※日本経営品質協議会のプログラムで、顧客、競争(独自性)、社員、社会のすべてにおいて高い価値を作り出すために革新し続ける経営づくりを支援するプログラムです。「顧客本位」「独自能力」「社員重視」「社会との調和」の4つの基本理念から構成されており、これらをすべて満たすことが卓越した経営に共通した条件とされています。

### 顧客本位

#### お客様に信頼される真のパートナー

私たちは、お客様ごとのニーズに応じて情報システムを構築・提供するサービス業であり、常にお客様の価値を創造していくことが使命である。

### 独自能力

#### 他社との違い

現場の経験で培ってきた優れた品質・高度な技術、それを支える確かな業務知識やIT専門知識、そしてお客様の夢を実現するための独自の「知恵」が私たちの財産である。

### 社員重視

#### プロフェッショナル人材

挑戦し、学び続ける自律した人材と、お互いを尊重する自由闊達な組織風土が、事業を営んでいくための重要な資産である。

### 社会との調和

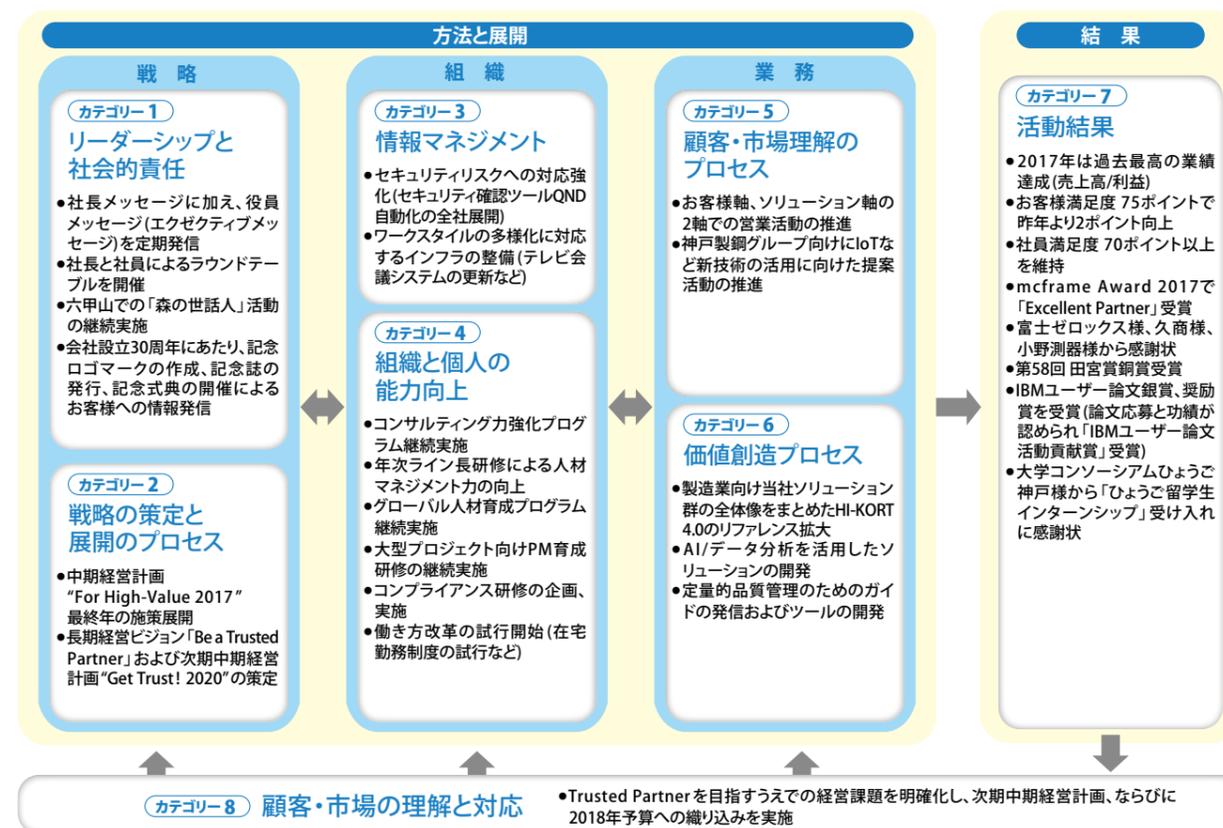
#### 企業倫理の遵守と健全な成長

コンプライアンスを推進し、適切なガバナンスを自律的に作り上げ、社会的な価値観で考え行動し、地域貢献活動にも積極的に参画する企業文化である。

## 経営品質向上プログラムのフレームワークと2017年の活動結果

組織プロセスの変革は、下図の8つの視点=カテゴリーで実践し、評価しています。

各カテゴリーでの2017年の活動結果を下記フレームワークに示します。



# コベルコシステムのCSRの取り組み

## CSR推進活動方針・推進体制

- ① ステークホルダーに対する「大切に想う気持ち」に根ざして、CSR活動を推進する
- ② コベルコシステムならではのCSR活動を展開する
- ③ さまざまな活動への参画を通じて、CSRへの理解を社内に広く浸透させる

コベルコシステムでは、CSRを「経営を支える大切な取り組み」と位置付けており、経営理念を実現するための活動として推進しています。

設立20周年にあたる2007年、社会的責任を果たすためのさまざまな活動を整理・体系化、2009年にはCSR推進委員会を設立し、2010年に「CSR推進活動方針」を策定しました。これまで、コンプライアンスの強化と情報セキュリティの強化、リスクマネジメント、適正取引の推進、社会貢献活動の充実を目指して活動しています。

CSR推進委員会は経営会議の諮問機関として、社長をオー

ナー、CSR担当役員を委員長とし、各部門から選出されたCSR推進委員で構成されています。この委員会が全社のCSR推進活動方針に基づいた重点活動領域の設定、個別テーマのワーキンググループによる活動、社内外へのCSR情報の開示などのコミュニケーション活動を担っています。

2012年4月には、適正取引に関する活動をしていた「適正取引推進委員会」をCSR推進委員会に「適正取引部会」として統合し、コンプライアンス強化の一環として推進する体制に再編しました。また、これらの活動を幅広くステークホルダーの皆様にご理解いただくために、2010年からCSRレポートを発行しています。

## コベルコシステムのステークホルダー



## CSR推進活動の軌跡



## ガバナンス推進体制

株主総会を起点とし、取締役会、および経営会議を基盤とする経営管理体制によって運営しています。取締役および執行役員の任期は1年として各年度の経営責任を明確にし、経営環境の変化にも迅速に対応できる体制としています。

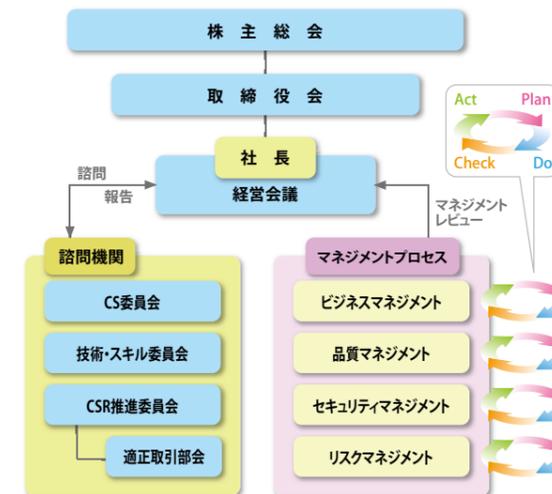
取締役会は、3ヶ月に1回の定期開催、および必要に応じて随時開催し、業務執行の基本となる意思決定や監督を行っています。経営会議は、経営戦略や重要施策の策定など、経営上の重要事項を審議・決定します。

コベルコシステムは、米国に本社を置くIBMグループの一員であり、SEC(米国証券取引委員会)の会計基準および米国SOX法に準拠したIBMの内部統制の配下にある会社です。

最高経営責任者(社長) および最高財務責任者(管理部長)は、四半期単位で財務諸表が正確であること、内部統制が健全に機能していることをステークホルダーに宣誓しています。

業務の有効性や効率性、財務諸表の健全性や信頼性、法令遵

守などコベルコシステムの内部統制環境が機能していることを保証するためにSOXテストやモニタリングを実施しています。



## コンプライアンス推進体制

お客様に信頼される真のパートナーになるために、法令などを遵守するのはもちろん、企業倫理に則した行動を取ることが必須です。コベルコシステムでは、「IBMビジネス・コンダクト・ガイドライン」(BCG)を適用した「コベルコシステム企業倫理規程」を制定し、社員一人ひとりが行動する際のガイドとしています。

また、企業活動を取り巻く、多様化、複雑化、かつ高度化するリスクに対して適切に対応することも求められるため、コンプライアンス推進活動の一環としてリスクマネジメント活動を継続しています。これは、リスク管理チェックリストを使用した自主点検を

中心とする取り組みで、その結果に基づき、残留リスクへの改善策を策定し実施するPDCAサイクルを回しています。

当社はビジネスパートナー様とともにプロジェクトを遂行するため、ビジネスパートナー様との取引が適正に遂行されているかどうかの確認も重要です。このため、「発注者の請負の適正化のための自主点検」チェックリストを使用した点検を実施し、その結果に基づき、懸念のある項目に対しては適正取引部会が責任者へのヒアリングを実施して具体的な懸念の内容を確認し、改善に向けたアドバイスや対応策の指示などを行っています。

### 2017年度 リスクマネジメント推進活動

2017年2Q~2018年1Q

Act 2017年4Q~  
是正・改善の実施

Check 2017年4Q  
自主点検結果の評価

幹部・ビジネスの責任者への  
フィードバック



Plan 2017年2Q

- リスクマネジメント整備・浸透**
- 前年の自主点検結果を反映したリスク管理チェックリストの改訂
    - 本社部門用(規程・ガイド制定側)
    - 現業部門用(規程・ガイド遵守側)
  - 新リスク管理チェックリストのための自主点検実施ガイド

Do 2017年3Q

- 新リスク管理チェックリストによる自主点検の実施

# 特集1 会社設立30周年 これまでとこれから

## — 30年の歩みと記念イベントの開催 —



### コベルコシステム 30年の歩み

- 1983 神鋼コンピュータシステム(株)として創立
- 1987 コベルコシステム株式会社へ商号変更(設立)
- 1990 社内でインターネット利用開始
- 1991 フレックスタイム制 導入
- 1992 育児休業制度 導入
- 1993 コベルコテレコム(株)と合併
- 1995 全社的に電子メールの本格利用開始  
ホームページ・イントラネット開設
- 1996 阪神・淡路震災復興実証事業へ参加
- 1998 お客様満足度調査 開始
- 1999 ISO9001認証取得  
(ソリューションシステム本部、東京システム本部)
- 2000 プライバシーマーク認定取得
- 2001 社員満足度調査 開始
- 2002 日本IBMの資本参加  
(神戸製鋼所/日本IBM IT戦略での包括的提携)  
CS委員会 発足  
品質レビュープロセス 導入
- 2003 中期経営計画: Plan KI-10  
ISMS認証取得(ハウジングサービス事業)  
KWC(KOBELCO SYSTEMS Woman's Committee) 発足
- 2004 第1回CS改善活動発表会 開催  
技術・スキル委員会 発足  
アプリケーションマスター(APM) 認定制度
- 2006 中期経営計画: Step up 3400  
KTO(KOBELCO SYSTEMS Technology Outlook) 発表
- 2007 全国企業品質賞 大賞受賞  
KCP認定制度(KOBELCO SYSTEMS Certified Profession) 導入  
QOMS(KOBELCO SYSTEMS Quality Management System) 運用開始
- 2008 全社イベント「ハッピーデー」開始
- 2009 中期経営計画: チャレンジ7  
CSR推進委員会 発足  
PSP(Project Security Process) 運用開始  
KDPS(KOBELCO SYSTEMS Development Process Standards) 運用開始  
次世代育成支援対策推進法認定マーク(くるみん) 取得
- 2010 CSレポート発行  
「森の世話人」活動開始  
KSMS(KOBELCO SYSTEMS Security Management System) 運用開始  
KWC(KOBELCO SYSTEMS Work-life-balance Community) に改称
- 2012 中期経営計画: Growth 2014
- 2013 本社移転
- 2015 中期経営計画: For High-Value 2017
- 2016 ノー残業デー全社展開
- 2017 会社設立30周年

### 会社設立30周年記念イベントを開催

社員とその家族が集うハッピーデー、お客様向けの記念式典、30年の歩みをまとめた記念誌の発行、特設Webページの開設など、さまざまな形で、さまざまな人たちとともに30周年を祝いました。



社内報 TRY journal 設立30周年記念 特別号



設立30周年記念 特設Webページ



お客様向け記念式典

全社イベント 30th Special

## 新 中期経営計画 (2018~2020年)

設立30周年を迎え、コベルコシステムが今後も持続的に発展を続けるために、これまでの経営ビジョンを新たに経営理念として位置づけ、コベルコシステムが将来ありたい姿を

示した長期経営ビジョン、さらに長期経営ビジョンの実現に向けて、3か年の新中期経営計画を策定しました。

### 経営理念

経営理念

**私たちコベルコシステムは、お客様と「夢」を共有し、確かな知識と卓越した技術によるITソリューション/サービスを通じて、お客様の発展とチャレンジに貢献し続けます。**

### 長期経営ビジョン 『Be a Trusted Partner』

長期経営ビジョン

#### Be a Trusted Partner

お客様に信頼されるパートナーとして

- ◆ お客様にとってなくては困る会社
- ◆ お客様とともに成長する会社
- ◆ 社員が誇りを持てる会社

新たに位置づけた経営理念のもと、コベルコシステムの経営幹部が中心となり策定した長期経営ビジョン『Be a Trusted Partner』では、コベルコシステムがお客様にとってサプライヤーやベンダーのレベルにとどまるのではなく、「Trusted Partner」、つまりお客様に信頼されるパートナーとして、お客様とともに成長することを目指しています。

### 中期経営計画 『Get Trust! 2020』

中期経営計画

#### Get Trust! 2020

方針

- ◆ 長期経営ビジョン実現への第1ステップとして顧客基盤強化の足固めの3か年とする
- ◆ Trusted Partnerとなるための人材育成、社員の行動変革を促す仕組みづくりに経営資源を投下する
- ◆ お客様とともに成長する  
(売上 380億円・CSポイント 総合満足度75ポイント)

中期経営計画『Get Trust! 2020』では、Trusted Partnerへの道のりの足固めとして、顧客基盤を強化するとともに、Trusted Partnerになるための人材育成や社員の行動変革を促す仕組みづくりに注力していきます。このほか、「成長戦略」、「リソース戦略」、「技術戦略」、「経営基盤強化戦略」からなる4つの事業戦略とその重点施策に取り組んでいきます。

### 中期経営計画(事業戦略)

#### 成長戦略

お客様に対して、営業部門と開発部門が連携したチームを設置することにより、顧客接点の強化を図ります。また、四半期ごとにCPS(クライアントプランニングセッション)を開催し、お客様軸での目標設定および目標に対する施策の推進状況を定期的にマネジメントしていきます。さらに、事業部間の人材ローテーションや商材・ソリューションの事業部間パイラルを促進することでソリューションの強化を図ります。

#### リソース戦略

新人採用を増やすことでリソースを確保するとともに、早期育成による即戦力化を図ります。また、社員の自律性を育むためにタスクフォース型活動を推進するなど、Trusted Partnerになるための社員の意識変革を促す仕組みづくりにも取り組んでいきます。

#### 技術戦略

フォーカスすべき12のコア技術を定め、重点的に取り組んでいきます。特に、RPA(Robotic Process Automation: ロボットによる業務自動化)活用については技術動向調査や市場調査を行い、早期ビジネスの立ち上げを目指すとともに、コグニティブについても日本IBMの知見を参考に取り組みを強化していきます。これらの技術テーマはパイロットの実施やプロジェクトの共同推進を通して神戸製鋼所と連携を図り、取り組んでいきます。また、継続的な品質改善活動やトラブル対応力の向上によってさらなるQCの強化に努めます。

#### 経営基盤強化戦略

法令を遵守し、コベルコシステムの子会社であるコベルコソフトサービスとの一体経営で、コベルコシステムグループとして経営基盤を強化します。また、個人と組織の生産性を高め、かつ多様な人材が高い次元でワークライフバランスを実現する働き方改革の取り組みを推進するとともに、役割・貢献に応じた人事制度改革にも引き続き取り組んでいきます。さらに、社員の生産性向上や中期経営計画の各戦略の実現に向けた情報システム改革にも取り組みます。

# 神戸製鋼グループへの貢献

コベルコシステムは、神戸製鋼グループの「IT機能分担会社」として位置付けられています。神戸製鋼所から日本IBMへのITの戦略的アウトソーシングにおける実行面の役割はもち

ろん、先進技術の活用やグローバル対応などを含め、ITによる神戸製鋼グループ企業のさまざまなビジネスへの貢献に取り組んでいます。

## コベルコ建機様 SmartFactory 構築支援

コベルコ建機様では、激化するグローバル競争に対応するため、製品リードタイムの圧倒的な短縮を目指して、エンジニアリング・チェーン改革、工場情報の一元管理、標準化による自動化の推進を

骨子とするデジタル革命「SmartFactory構想」を推進しておられます。コベルコシステムでは、この構想のもと、システムの構築から構築、導入、運用にいたるまで全面的なご支援を実施しています。

### 背景

製品デザインにおける曲面の複雑化を契機に1995年頃から3D設計に着手され、2002年には完全3D設計化を実現されました。そして、製品全体のモックアップに成功し、設計品質を大きく向上されました。また、この頃、設計プロセス改革に着手され、2006年に現在のPLM<sup>(\*)</sup>システムの基盤を構築されています。

- 3D-2D-PLM連携による情報精度と鮮度の向上、シングルインプット・マルチアウトプット<sup>(2)</sup>の実現
- PLMですべての設計プロセスをコントロール、プロセスの標準化と可視化を促進
- 3D⇄PLM⇄ERPに横串を通し、3Dの変更が、翌日確実に手配情報に反映される一気通貫な情報連携を実現

その後、グローバル化の拡大に伴い、製品バリエーションは加速度的に増加、設計サイドはコンフィグレーション機能<sup>(3)</sup>の強化で追従を図ってきました。

一方、2014年に操業を開始した五日市工場は、重量7~30tもの幅広い製品ラインアップを日に30車種程度を生産する混流生産<sup>(4)</sup>となり、従来のやり方では十分な製造品質を担保することが困難になりつつありました。



### SmartFactory構想とは

また、コベルコ建機様では、ワークスタイル変革を強力に推進しておられ、生産性を極限まで追求、動き(無駄な作業・業務)を働き(付加価値を生む作業・業務)に転換できる環境構築が急務となっていました。加えて、激化するグローバル競争に対応するため、製品リードタイムの圧倒的な短縮も至上命題となりつつありました。

このような中、現中期計画(FY2016~20)で打ち立てた下記を骨子とするデジタル革命がSmartFactory構想です。

- 上流での工程/標準設計による製造品質の作り込み
- 品質/生産性情報の可視化による継続的な改善
- 標準化による自動化の推進

標準化をキーワードに、作業の標準化プロジェクトを推進され、現場作業を徹底的に分析、デジタル化の基盤を整備されました。

2020年には国内工場でのSmartFactory構想を完遂させ、その後、海外工場への展開を計画されています。



### 製造現場の状況をリアルタイムで可視化

- ICT化・自動化・ロボット化で実績情報自動収集
- 自動化のためには標準が必要

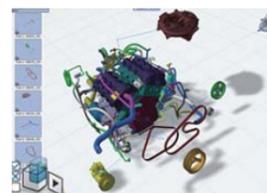
### 永続的現場改善定着と生産最適化を推進、競争力を強化

- 異常や問題を明確にするためには標準が必要
- 標準を効率的に作り込む仕様が必要

### ハイライト

#### デジタル・マニファクチュアリング

- 設計の3Dデータと連携して、バーチャル空間にプロセスツリーを構築。さまざまな検証を通じて、安全かつ確実に組み立てられることを保証した標準作業手順を確立します。
- これらを設計とコンカレント<sup>(6)</sup>に推進できる環境を構築することで、製造不具合による手戻りの大幅な削減に取り組んでいます。



組立実現性を評価する組立工程シミュレーション



人体モデルを用いた作業動作の定義・検証・最適化



シミュレーションに基づく作業標準時間の計算



3次元設備設計と機構を持つ設備の動作シミュレーション



工場レイアウトの定義・検証・最適化

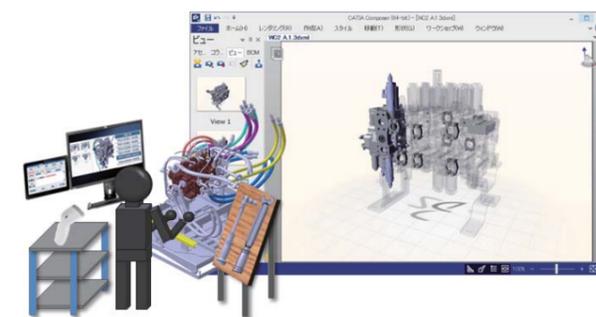


設備とものの流れのシミュレーション

図提供：ダッソー・システムズ株式会社

#### 3D組立手順書

- デジタル・マニファクチュアリングによって、安全かつ確実に組み立てられることが保証された標準作業手順は、3Dで現場に配信されます。
- 作業者はコマ送りで工程順序を正確に把握しながら、締め付けトルクなど、各工程の組立指示を確認できます。
- さらに、自由に拡大・縮小・回転させながら、より詳細に作業を把握することができます。



#### 工場の可視化

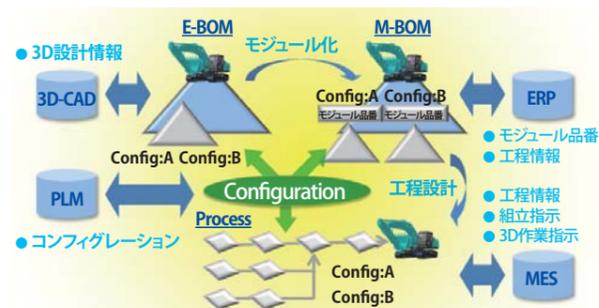
- 混流生産により複雑に組み合わせられた作業が展開する工場において、さまざまな情報を収集・分析し、能動的かつ永続的な改善活動につなげます。

- 材料・加工・機器シリアル自動読み取りと、製品シリアルとの関連付けによるトレーサビリティの強化
- 設備・工具との連携による作業の着手・完了の自動取得とリアルタイム表示
- 加工/締付実績、検査/性能試験/出荷チェックなど品質記録の管理強化

### 今後の展開

#### 真のエンジニアリング・チェーン改革へ

- コンフィグレーション情報を核としたシームレスな連携を実現し、設計と生産準備のよりいっそうのコンカレントを促進していきます。
- 製造品質を担保、モジュール化したM-BOM(製造BOM<sup>(7)</sup>)をERPに連携、より柔軟な内作・外作の切り換えなど、需要への適応力を高めていきます。
- 標準化した作業指示や3D手順をMES<sup>(8)</sup>に連携、混流生産への対応力を強化していきます。



#### スマート・ファクトリーのさらなる促進

- RFIDの導入による設備・工具との連携を強化し、作業の着手・完了の自動取得により、さらなるスマート化を推進していきます。
- 品質トレーサビリティの対象を拡大しながら、画像認識によるシリアル読み取りなど、さらなるスマート化の実現に取り組めます。
- コンフィグレーションとの連携により、検査すべき装備を自動的に判別できるようにし、さらには人が介在しない検査記録の収集・管理を目指します。

\*1 PLM (Product Lifecycle Management): 製品ライフサイクル管理  
 \*2 シングルインプット・マルチアウトプット: 一度の入力でさまざまなデータに自動反映される仕組み  
 \*3 コンフィグレーション: 製品を構成する仕様や部品の組合せ、設定値、およびそれを表現する仕組み  
 \*4 混流生産: 一つの生産ラインにさまざまな製品が流れる多品種少量生産における生産形態  
 \*5 PDM (Product Data Management): 製品情報管理  
 \*6 コンカレント: 設計から製造にいたるさまざまな業務を同時並行的に行うこと  
 \*7 BOM (Bill of materials): 部品表  
 \*8 MES (Manufacturing Execution System): 製造実行システム

# お客様から信頼されるパートナーになるために

コベルコシステムでは、「お客様満足度向上活動」を経営を支える大切な取り組みとしています。お客様の声に耳を傾け、お客様のご期待を超え、お客様に感動していただける会社づくり

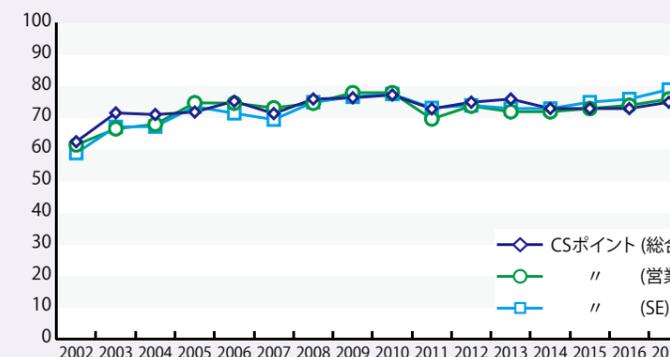
に取り組み続けています。お客様に愛され、お客様から信頼される真のパートナーとなることを目指します。

## 活動結果のご報告

お客様とお約束した改善の進捗状況や達成報告を行い、ご期待に応えることができたかを評価していただいています。活動が不十分であったり、さらなる課題についても確認し、継続して活動していきます。



## Be a Trusted Partner



## CS (Customer Satisfaction) 調査

お客様がコベルコシステムに求めていることを知り、その思いに真摯に応えることで、お客様の真のパートナーであり続けたいと考えています。そのための方法としてお客様からのご意見やご評価をいただく「CS調査」を行っています。CS調査は、コベルコシステムの活動全般に関する「お客様満足度調査」、構築・開発プロジェクトに関する「プロジェクト満足度調査」、運用保守サービスに関する「サービス満足度調査」の3種類を適時に行っています。

## 業務改善活動

2017年の業務改善活動は、昨年に引き続き過去最多を更新する104チーム、688人が活動に取り組みました。活動内容は、お客様からのご意見に対する取り組みをはじめ、業務効率化や品質向上などへの取り組みも行っています。その集大成として、業務改善活動発表会を年1回開催しています。全国各地の事業所をTV会議システムで接続、活動内容を共有し、横展開を図っています。



## CS委員会

お客様満足度向上の観点から、全社レベルの施策を検討し、迅速に対応する仕組みとしてCS委員会を設置しています。2002年の活動開始から今日にいたるまで、お客様に満足していただけるサービスをお届けできるように、社員のCS意識の向上に向けたさまざまな活動を展開しています。



## CS研修

社員のCS意識のさらなるランクアップを目指して、毎年、全社員を対象としたCS研修をe-ラーニング形式で行っています。また、合宿形式での討議会を毎年開催して、心豊かな感性を育む場として重要な役割を果たしています。



## CSスローガン

毎年、社員からCSスローガンを募集し、その中から全社員の投票により翌年のCSスローガンを決めていきます。決定したCSスローガンはポスターにして各事業所の執務フロア、会議室など、社内各所に掲示し、社員のCS意識の向上を喚起しています。



2018年CSスローガン

## CS通信

社員一人ひとりがお客様の気持ちを理解することの重要性を再認識し、常にお客様の立場に立った行動ができるように、毎月一回『CS通信(メールマガジン)』を全社員に配信しています。社員の体験談などを記載したコラムを中心に、街で見つけたCS、CS川柳など、親しみやすい内容で構成され、社員が楽しみながらCS意識を向上しています。



## 改善内容のお約束

CS調査でお客様からいただいたご意見をもとにお客様の課題とコベルコシステムへのご期待を確認し、今後の改善内容についてお約束しています。コベルコシステムでは、その内容に基づいて改善活動を行っています。

CSの取り組みについて

お客様とともに

ビジネスパートナー様とともに

社員とともに

地域社会とともに

# セキュリティなくしてビジネスなし

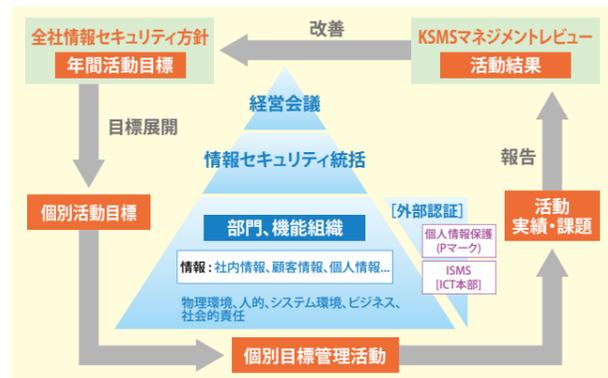
## 情報セキュリティマネジメントシステム

KSMS: [KOBELCO SYSTEMS information Security Management System](#)

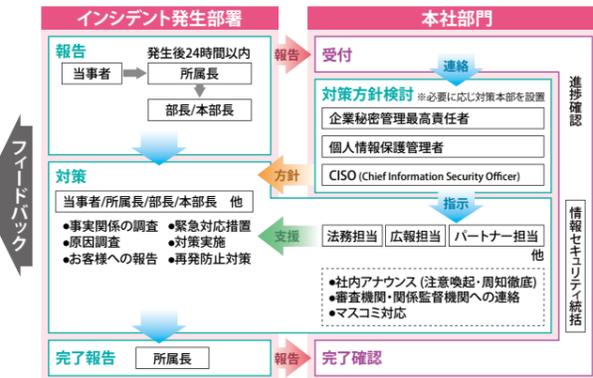
インターネットが社会の経済活動に欠かせないインフラに成長するとともに、ITを利用したテロ、詐欺、窃盗や個人情報漏えいなどが大きな社会問題となっています。

このような社会的要請のもと、情報システムを生業とする当社としては、関連会社も含めKSMSというセキュリティマネジメント体系を定めてセキュリティ活動を行っています。KSMSは、経営幹部によるマネジメントレビューのもと、情報セキュリ

ティポリシーの設定・見直しおよび、「物理環境」「システム環境」「人的」「ビジネス」「社会的責任」の各視点でセキュリティ活動のPDCAサイクルを回し、リスクの変化に適応した最適なセキュリティ水準を維持しています。また、突発的なセキュリティ・インシデントには、全社対応体制を整備し運用するとともに、適宜セキュリティ活動にフィードバックしています。



KSMS



セキュリティ・インシデント対応体制

## プロジェクトセキュリティプロセス

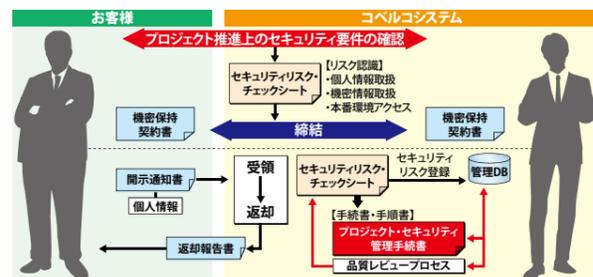
PSP: [Project Security Process](#)

コベルコシステムでは、プロジェクトのQCD管理に加え、2009年からPSPによるセキュリティ管理を推進、強化してきました。PSPとは、プロジェクトごとにセキュリティリスク(個人情報の取り扱い、機密情報の取り扱い、本番環境アクセス)を把握したうえで、お客様とリスクを共有し、対応策を実施していくセキュリティ管理手法です。

この手法の運用定着化をまとめた論文(2014年)と情報漏えいリスク発見アプローチをまとめた論文(2015年)は、IBMユーザー論文で銀賞と銅賞を受賞しました。

お客様からお預かりしている情報資産を守ること、そしてその

情報資産へのアクセスを管理することがコベルコシステムの使命と考え、プロジェクトのセキュリティを確保しています。



プロジェクトセキュリティ対策概念図

## 情報セキュリティマネジメントシステム

ISMS: [Information Security Management System](#)

コベルコシステムのISMSは2003年のICT本部のハウジングサービス事業から始まり、適用範囲を徐々に拡大し、2018年にはICT本部全体での認証を取得しました。

また、2017年に「IBMシステム受託サービスにおけるアプリケーション開発・保守サービスの提供」業務(SO本部担当)において、日本IBMグループの統一認証を取得しました。

## 個人情報保護の推進

コベルコシステムでは、2000年にプライバシーマーク制度の認定事業者となり、個人情報について適切な保護措置を講ずる体制を構築しています。また、セキュリティと個人情報保護の理解を深めるため、毎年、情報セキュリティ研修も実施しています。

2017年に全面施行された改正個人情報保護法の内容も情報セキュリティ研修に織り込み、社員の個人情報保護に対する知識の最新化に努めています。

# 品質向上活動に終わりはない

コベルコシステムでは、システム開発・構築における品質向上を図るため、1999年に認証を取得したISO9001をベースに品質マネ

ジメントシステム「KQMS」を構築しています。この下に「KDPS」「品質レビュープロセス」と呼ぶ当社独自の仕組みを構築しています。

## 2017年 全社品質方針

お客様へのHigh-Valueサービスの提供を実現するために、デリバリー品質向上の仕組みを継続的改善によりさらに強化し高いレベルでの品質の均一化を図る

## 品質マネジメントシステム

KQMS: [KOBELCO SYSTEMS Quality Management System](#)

全社で共通のQCD管理サイクルを制定し、それぞれのプロジェクト状況を一元管理しています。

全社品質方針・品質目標管理によるマネジメントレビューのもとでQCDの管理レベルの平準化とプロジェクト情報の見える化を実現し、また継続的に改善活動を行うことによって組織としてのQCD管理レベルの向上を図っています。

※QCD: Quality(品質)、Cost(コスト)、Delivery(進捗)

## 開発プロセス標準

KDPS: [KOBELCO SYSTEMS Development Process Standards](#)

KDPSは、当社独自のプロジェクト管理手順をシステム開発・構築プロセスの標準として組み立てたものです。

プロジェクト計画や検証活動の手順・様式を充実させ、管理作業効率向上のための雛形や管理ツールも準備しています。

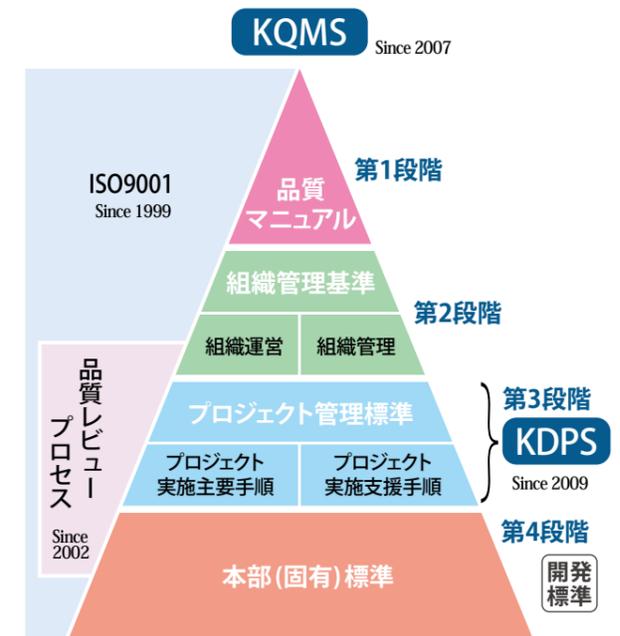
## 品質レビュープロセス

個々のシステム開発・構築が、お客様のご要望を満たし、高品質かつ所定のコスト内で確実に実現できるようにするため、当社独自の品質レビュープロセスを実施しています。

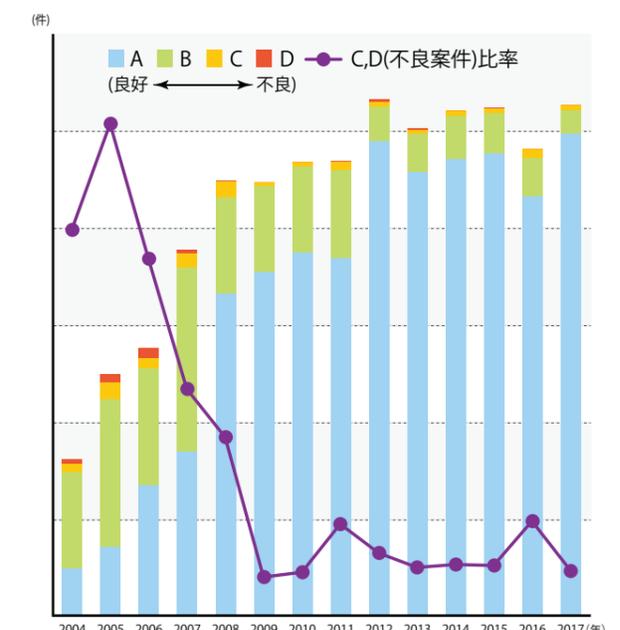
このレビュープロセスは、お客様への提案段階からサービス実施期間全体を対象とし、サービスの成功を脅かすリスクの特定・定量化・対応策策定を行うため、特別に訓練されたレビューアによって実施しています。

## ISO9001:2015の認証 (2017年更新・移行)

適用規格[ISO9001:2015]の更新・移行審査を2017年11月に受審し認証は継続されました。



品質マネジメント体系図



プロジェクトの品質評価別件数

# 新たな付加価値を創出するために

## 技術・スキル委員会

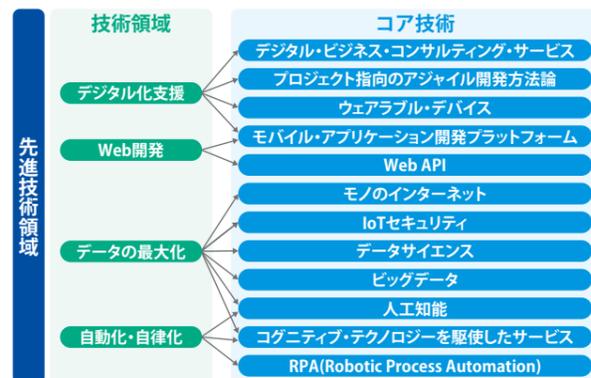
技術・スキル委員会は、経営会議の諮問機関として、取締役を委員長とし、各本部の開発部門長・本社部門長(約30人)を委員として構成しています。

これまでの活動として、コベルコシステムの品質マネジメントシステム(KQMS)や開発プロセス標準(KDPS)の審議、ソリューションテンプレートのアセット化推進、先進技術の推進、プロジェクト管理力強化などの答申を行い、当社の技術・スキルの礎を築いてきました。

さらに、当委員会は全社の技術戦略策定を担う役割を持っています。2018年から始まる新中期経営計画の核となる戦略の1つとして、3か年で注力する12のコア技術を定め、技術強化計画を策定いたしました。

この技術戦略をもとに、人工知能(AI)やモノのインターネット

(IoT)などの先進技術を利用したサービスやソリューションの議論も行っており、お客様に高い付加価値を提供することで、お客様のデジタル変革をサポートしていきます。



新中期技術戦略 先進技術領域でフォーカスするコア技術

## KTO (KOBELCO SYSTEMS Technology Outlook)

コベルコシステムでは、発展的な視点から当社が活用すべき技術・スキルの今後を鳥瞰できる「KTO」を、2006年から毎年作成しています。グローバルレベルの先進技術動向や国内のIT業界動向とその成熟度をとらえ、お客様に貢献できるよう、当社の事業

### 業界動向

「いち早くキャッチアップすべき、新しい技術は何か」「競争力を保つのに必要な技術は何か」など、ITを利用する多くの人々がどのような技術に関心があり、またその成熟の度合いを知ることは重要です。全体を網羅し、鳥瞰することにより、その年の技術トレンドを理解することができます。

### コベルコシステムの先進技術フォーカス分野

先進技術フォーカス分野は、コベルコシステムの先進技術への取り組みの方向性を示し、今後の事業メニューを支える技術をリードします。毎年、先進技術フォーカステーマを設定し、先進技術への取り組みを推進しています。

**先進技術フォーカステーマ**

**進化するIoTと脅威への対応**

- IoTの現状
- 近年注目されるIoTの要素技術
- IoTによって進歩するリアルタイム分析

**マルチデバイス時代のリッチユーザーインターフェース SPA (Single Page Application)**

- 今Webフロントエンドで注目を集めるSPA
- SPAが提供するマルチデバイスでの快適な操作
- SPAの活用
- 効率化と品質を高めるための開発

**AIによるビジネスの高度化**

- AIのビジネスへの適用
- AIの活用による意思決定の変化
- 加速する既存システムとの連携

メニューに特化した技術や先進技術への取り組みの方向性を示しています。お客様が直面されている課題の解決や次期IT環境構築のロードマップ作成をお客様とともに進める一助として活用いただけます。

### 先進技術動向

ITの世界では技術の進展がめざましく、次々と新技術が出てきています。ただ、新技術の中には期待が先行しているケースも多く、技術の黎明期から安定期にいたるまでの、成熟度の変化を捉えて技術の採用時期を考慮することが必要です。先進技術動向では、中長期的な技術を鳥瞰することができます。

### コベルコシステムの事業メニューに特化した技術

コベルコシステムは、お客様の課題を解決し、お客様価値創出に貢献するために、事業メニューに特化した技術を追求しています。お客様とのパートナーシップの強化を通して、お客様の競争力向上に貢献します。

# 外部からの評価

## 感謝状・アワード

お客様に納めた先進的なプロジェクトやアセットビジネスの取り組みなどを評価いただきました。コベルコシステムにとって一番の喜びは、お客様からの「ありがとう」です。

2017年もお客様から多くの「ありがとう」が届きました。これからも、お客様に笑顔で「ありがとう」と言ってもらえるよう、お客様に信頼していただけるパートナーとして尽力していきます。

### ● mcfame「Excellent Partner賞」

mcfame/パートナー総会2017において、「Excellent Partner賞」を受賞しました。この賞は、mcfameの新規受注、導入、認定資格取得者の数を増やすなどの技術者育成、およびマーケティング活動に協力したパートナー企業に対して授与される賞です。これにより、「Excellent Partner賞」は、6度目の受賞となりました。



### ● 富士ゼロックス様

富士ゼロックス様から「マイナンバーBPO サービスプラットフォーム開発」のシステム構築支援に対して感謝状をいただきました。コベルコシステムは、要件定義・システム設計開発から構築・運用上の相談にいたるまで納期厳守かつ高品質を実現し、ノントラブルでのサービスインに貢献しました。

### ● 久商様

コベルコ建機様の最大サプライヤーである久商様から、「基幹業務システム全体刷新」プロジェクトに感謝状をいただきました。コベルコシステムは、お客様投資予算の範囲内での全体刷新と計画通りのサービスイン、プロジェクト期間中の本社移転など、課題への柔軟かつ的確な対応を評価していただきました。

### ● 小野測器様

小野測器様向け「基幹系新情報システム構築プロジェクト」に対し、感謝状をいただきました。計画通りのサービスインと業務安定化を実現し、プロジェクト目標達成へ寄与、プロジェクト・マネジメントとコントロール、メンバーひとりひとりのリーダーシップを評価していただきました。



## IBMユーザー研究会

### 第55回IBMユーザー論文 入選 / JGS (日本ガイドシェア) 優秀論文 入選

全国IBMユーザー研究会連合会が主催する第55回IBMユーザーシンポジウムにおいて、コベルコシステムから、IBMユーザー論文として銀賞2件・奨励賞3件を受賞し、表彰されました。

この賞は、事例型論文と提言型論文に分かれ、ともに貢献度、先進性、実証性などが評価基準になっています。

これまででも、コベルコシステムは最優秀賞をはじめ、過去12年で40論文が入賞・入選しています。その活動が評価され、会社として、IBMユーザー論文活動貢献賞を受賞いたしました。

また、今回のシンポジウムでは、ユーザー研究会の論文のほか、JGS (日本ガイドシェア) 優秀論文も2編入賞しています。

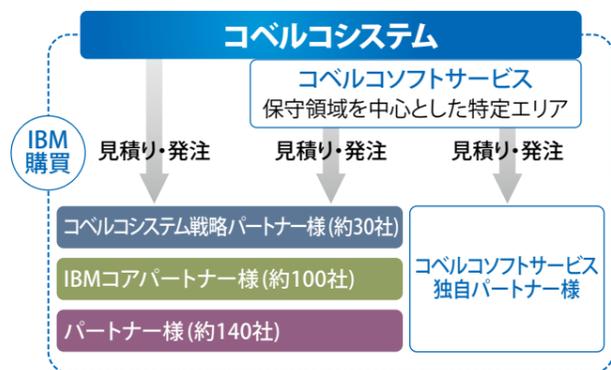
IBMユーザー論文	銀賞 [事例型論文]	大規模分散開発へのCI導入による構成管理運用工数ゼロの実現
	銀賞 [提言型論文]	XDDP普及のためのXDDPプラクティス路線図の提案
	奨励賞 [事例型論文]	クラウドを活用した次世代サーバー統合環境への取り組み
	奨励賞 [提言型論文]	API Firstなシステムアーキテクチャの提言 ~SPA開発の課題と対応策~
JGS (日本ガイドシェア) 優秀論文	優秀論文	自動テスト導入障壁低減の提案 ~OSSを利用したEnd to Endテスト自動化~
	優秀論文	クラウドにおける新たな性能管理についての提言

# 公正なパートナーシップの維持

## より強固なパートナーシップの構築

2016年1月から、コベルコシステムでは、「コベルコシステム戦略パートナープログラム」を導入しています。このプログラムは、価格競争力を保ちつつ、品質の高いサービスをご提供いただけるパートナー様と戦略的パートナーシップを結ぶことで、お客様へさらに価値あるサービスをご提供することが目的です。

戦略パートナー様には各社の強みや技術者情報などをご提供いただき、当社からは今後のビジネスを優先的にご紹介するなど情報連携を強化します。それによって、より高いセキュリティ遵守、適正取引などの法令遵守の相互協力、また、見積りプロセスの簡素化や品質評価のフィードバックの実施など、相互にメリットをもたらす、より強固なパートナーシップを構築しています。



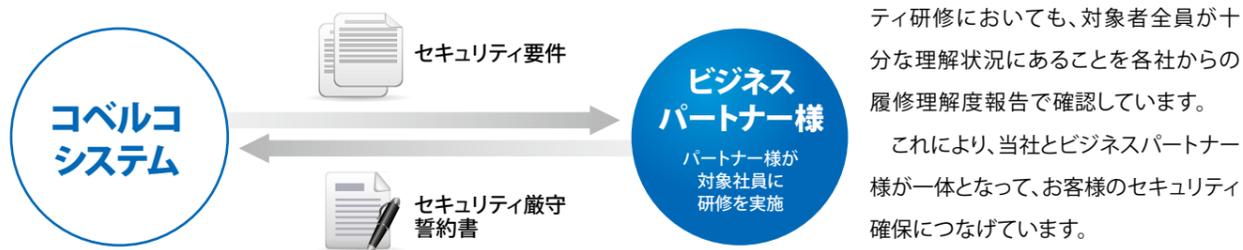
### 当プログラム対象パートナー様のメリット

- ビジネスを優先的にご紹介
- コベルコシステムとのリレーション強化の場の提供(パートナー会など)
- CSA(新見積りシステム)でのバイヤレス(IBM購買バイヤーを介さない)プロセスの実現による見積りプロセスの簡素化と発注までのリードタイム短縮
- パートナー推進グループとの定期的な意見交換および双方のビジネス拡大に向けた取り組みを協業して実施
- IBM主催の研修の割引価格での受講
- セミナー/研修への参画
- 品質評価フィードバックの実施

## 一体となってセキュリティを確保

当社は、ビジネスパートナー様とともにプロジェクトを遂行しています。その際、ビジネスパートナー様には、当社の社員と同等の基準でセキュリティを確保し、お客様に安心をお届けできるようご協力いただいています。

当社は、社員に対し、セキュリティ事項の遵守、徹底を図るために、毎年内容を見直して研修を実施しています。また、ビジネスパートナー様に対しては、各社の責任者に依頼し、対象社員に向けて研修を実施していただいています。2017年度のセキュリティ研修においても、対象者全員が十分な理解状況にあることを各社からの履修理解度報告で確認しています。



## 適正取引の推進

当社は、ビジネスパートナー様へのそれぞれの業務委託方式にあわせた発注・進行管理を行っています。それらを適正に行うために、CSR推進委員会の下部組織として「適正取引部会」を設け、適正取引ガイド、e-ラーニングなどにより、具体的なガイドを社内にて徹底する一方、ビジネスパートナー様に対しても定期的なレターの送付、アンケート調査、個別訪問の実施などを通じてその理解と実践をお願いしています。

主な取り組みは、以下の3点です。

- ① ビジネスパートナー様における適正取引状況の調査
- ② ビジネスパートナー様の再委託先活用状況確認
- ③ 請負の適正化のための自主点検実施および実態調査

これらの活動により、ビジネスパートナー様との健全な関係を維持し、お客様をサポートしています。

## ともにコンプライアンスを遵守し業務遂行力を向上

コベルコシステムでは、ビジネスパートナー様とともに成長していくため、ビジネスパートナー様の「コンプライアンス遵守状況」と「業務遂行力(プロジェクト遂行力)」という2つの観点から総合的な確認を行っています。

### ■コンプライアンス遵守状況に関する確認

会社としてのコンプライアンスへの取り組みを以下の項目で確認しています。

- ① コンプライアンスに関する専任者の設置など
- ② 取引の適正化に向けた取り組み姿勢
- ③ セキュリティ管理
- ④ 公的認証の取得
- ⑤ 組織的・人的・物理的・技術的安全管理

### ■業務遂行力(プロジェクト遂行力)に関する確認

プロジェクトでビジネスパートナー様と協業した当社のプロジェクトマネージャーが以下の項目で判断しています。

- ① 品質
- ② 生産性と価格
- ③ 納期
- ④ プロジェクト管理能力
- ⑤ 技術力
- ⑥ 総合的対応力・体質

各ビジネスパートナー様のレベルアップ活動を支援するため、結果をフィードバックしています。

## ビジネスパートナー様への感謝

毎年、当社は、「コベルコシステムパートナー会」を開催し、当社の業務に貢献いただいたビジネスパートナー様への感謝として、ベストパートナー賞を贈呈しています。

2017年のベストパートナー賞を贈呈した(株)アイビーシステムズ様から、次のようなメッセージをいただきましたので、ご紹介します。

### ビジネスパートナー様の声：株式会社アイビーシステムズ様

株式会社アイビーシステムズは、2005年12月に設立し今年で13年目となるIT企業です。

創業当時からコベルコシステム様とご協業の機会をいただき、弊社の成長を支えていただきました。コベルコシステム様のCSRへの取り組みは、素晴らしい活動が多くコンプライアンス遵守はもちろんのこと、戦略パートナーとしてこれから取り組まなければいけない多くのことを勉強させていただいており、とても参考にさせていただいております。

社員一同、深く感謝いたしております。今後は30周年を迎えられたコベルコシステム様が、次の50年、100年と未来に花を咲かせる企業になるためにも、これまで以上に強固な信頼関係を築いていけますよう、また、ベストパートナーとしての責任と誇りを持って、さらなるIT企業として発展していくことを目指してまいります。

弊社は、「お客様」「技術力」「社員」の3つの視点を常に向上し続けるという理念をもって日々活動しております。取り組みといたしましては、セキュリティ遵守として情報セキュリティマネジメントシステム(ISMS)の運用、品質向上を目指した人材育成の強化、社員の観点では、働き方改革としてワーク・ライフ・バランスの推進などを行っております。

今年は、「ベストパートナー」という身に余る、名誉ある表彰をいただきました。



左から当社取締役 角、株式会社アイビーシステムズ 取締役営業部長 野沢様、取締役副社長 福森様、当社社長 田野

# 人材育成の仕組み

『“コベルコシステムの最大の資産は人であり、社員一人ひとりの能力の最大限の発揮こそが会社発展の原動力である”という認識のもと、一人ひとりが互いを尊重し合いながらイキイキ働き、

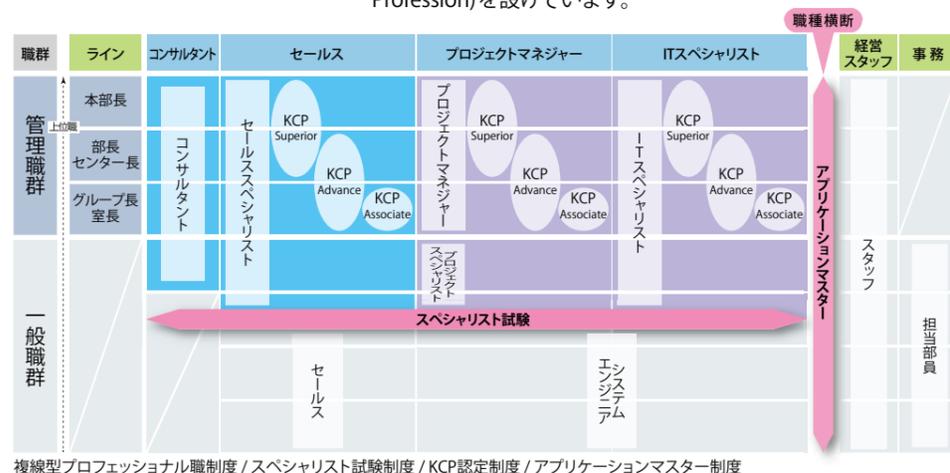
プロフェッショナルとして人間として成長できる会社の実現』を人事基本理念に据え、「期待する人材像、人材要件」を下記の通り定義しています。

- ① ITのプロフェッショナルとして、常に自らの専門性を磨き、高めるとともに、時代や環境の変化に、柔軟に自分で考えて動くことができる人材
- ② 人と協働し、他も活かし、組織・チームの目標達成のために、組織・チームの能力の最大化と最大限発揮に貢献できる人材
- ③ 社会人・企業人として、社会や会社のルールを遵守し、お客様に対しても常に責任を持って誠実に対応できる人材

## 複線型プロフェッショナル職制度を基軸に ~コベルコシステム認定プロフェッションを目指して~

これらを具現化する仕組みとして、社員一人ひとりが能力を最大限に発揮することを追求する複線型プロフェッショナル職制度を採用しています。

そしてハイレベル人材の育成・登用および各職種の目指すべき人材像として、KCP認定制度 (KOBELCO SYSTEMS Certified Profession) を設けています。

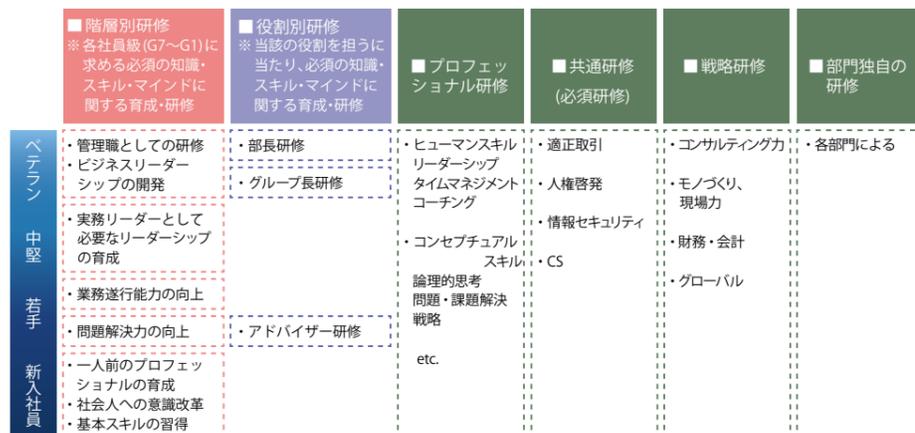


## 教育・研修体系

コベルコシステムでは、「すべての質を高めよう」というスローガンのもと、IT研修はもとより、ヒューマンスキルなどの普遍的要素の研修や、お客様の経営課題解決に寄与する、コンサルティング力、モノづくりや現場力の強化など経営戦略に即応した、さまざまな研修を実施しています。

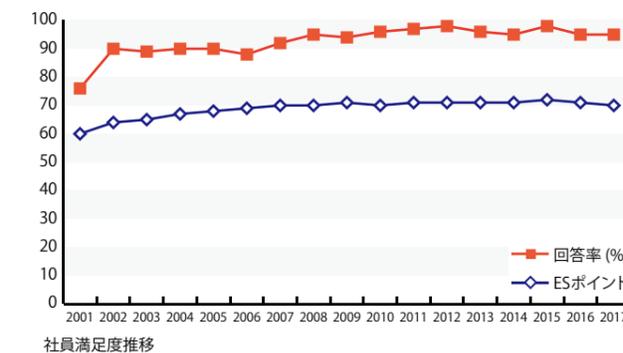
スケジュールにあわせて効率よく利用できる環境も提供しています。2018年は、お客様のパートナー (Trusted Partner) となれる人材の育成をさらに強化します。

また、社員全員が知識を習得するための必須研修、各階層や役割別の研修、個人の成長段階にあわせて受講できる研修や、それぞれのキャリアプランにあわせて選択・受講することができる通信教育やスマートフォンでも学習できるeラーニングなど、個人の



## 社員満足度調査

「社員満足 (ES) の向上がお客様満足 (CS) の向上につながる」という基本認識のもと、2001年から毎年、社員満足度調査を実施しています。全社員を対象に匿名で回答してもらうことで、社員の率直な意見を集め、課題の分析や改善策の立案を行っています。総合満足度との相関が高くポイントの低い設問への対応に加え、「一律から個別へ」の方針を掲げ、「業務環境の違い」にも着目して対策をとっています。全社結果では70ポイント以上を10年連続堅持していますが、業務環境による社員満足度のバラつきは正など、社員一人ひとりを取り巻く環境を踏まえ、「満足の質」を高める課題の発見や改善に向けたアクションをとっています。



## グローバル人材育成プログラム

コベルコシステムが求めるグローバル人材とは、「社会人基礎力」や「ITスキル」、「プロジェクトマネジメントスキル」、「セールススキル」をベースに「異文化を理解する力」「世界で幅広く通用するコミュニケーション力」というグローバル特有の要件を兼ね備えた人材です。

今後も、グローバルビジネスで活躍できる人材輩出の環境づくりを積極的に行っていきます。

2016年からは、これまでの語学力サポートやグローバル研修に加え、特にビジネス上で語学力やコミュニケーションを活かせるグローバル人材の育成に重点を置いた当プログラムをスタートさせています。



当プログラムは一般的な語学研修とは異なり、英語でのE-Mailライティングスキルや海外でのビジネスミーティングの進め方など、異文化コミュニケーションの要諦を解説と実践演習による経験を通じて理解・習得する内容になっています。研修中の講義はもちろん受講者間の会話もすべて英語で進行します。



### 2017年グローバル人材育成プログラム参加者の声

研修受講前から、業務で海外の方と英語のメールやWeb会議をする機会がありましたが、英文メールの書き方や会議の進行方法を学んだことがなく、正しく伝わっているのか、相手に失礼な発言をしていないか不安に感じていました。研修を通して、英語でのメールの書き方、会議の進行・発言方法、プレゼンテーションの仕方を中心に、相手との関係性による英語の使い分けなど、ビジネスで重要となる部分にフォーカスして英語を習得することができたため、業務でも自信を持って英語でコミュニケーションができるようになりました。

また、さまざまな学習方法を紹介していただいたことで、自分に合った方法で楽しみながら英語学習の習慣を付けることもできましたので、今後さらに業務で活かせるよう、学習を続けていきたいと思っています。

産業ソリューション事業部  
インダストリーソリューション本部 第1開発部  
西日本第1グループ 福田 南さん



# 人材育成の仕組み

## コンサルティング力強化プログラム

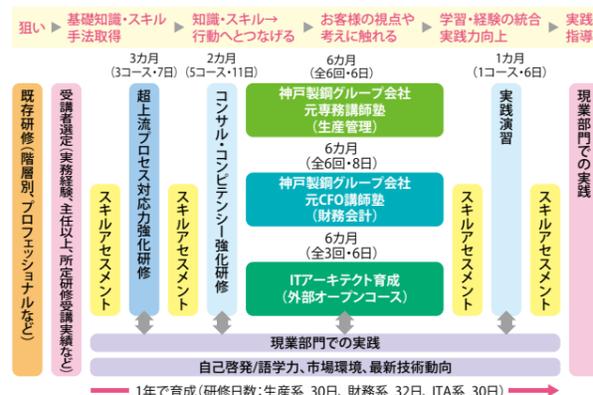
ITを取り巻く環境変化に伴い、現在コベルコシステムに求められているのは、お客様のビジネス環境やニーズを理解し、ともに経営課題を解決できる人材です。

そのような状況を背景に、「ITベンダーからITパートナーへの変革」というスローガンのもと、2016年から開始したのが「コンサルティング力強化プログラム」です。

当プログラムでは、企業分析方法などの知識習得をはじめ、提案書作成、プレゼンテーションなどの講義や実践演習を通じ、さまざまなアプローチでお客様へ提案する際の姿勢やスキルを体得します。当プログラムの専門コースでは、神戸製鋼グループ会社の元専務・元CFOを講師に迎え、経営者の視点を学びながら実際のお客様向けに提案を行うなど、非常に実践的な内容となっています。

プログラム期間は約1年間の長丁場で、2017年の受講者は各

部門から選抜された中堅～ベテラン層の8人でした。まだ始まって間もない研修ですが、今後も継続的に実施し、お客様のパートナーとして活躍できる人材を増やしていきます。



### 2017年コンサルティング力強化プログラム参加者の声

私は本研修を受講させていただくことで、コンサルティングに必要な知識を習得することはもちろんのこと、経営者の視点や経営課題を意識してお客様と接することができるようになったことが大きな成果と感じています。

本研修は、演習が中心の実践形式だったため、実際の業務でもすぐに利用できるよう工夫されていました。専門コースでは元専務、CFOを経験された講師から、常識に捉われず自由な発想をすることが新たなビジネスに繋がるなど、経営者ならではのアプローチを過去の経験から指導いただき、たい

へん勉強になりました。また今回の受講者は、各本部から選抜されたメンバーだったこともあり、お互いに刺激し合うことで成長することができました。

今回学んだことを実際の業務でも取り組み、お客様に真のパートナーとして認めただけよう頑張っていきます。

システム事業部 ICT本部 SOシステム技術部 第3サーバグループ 山田 克也さん



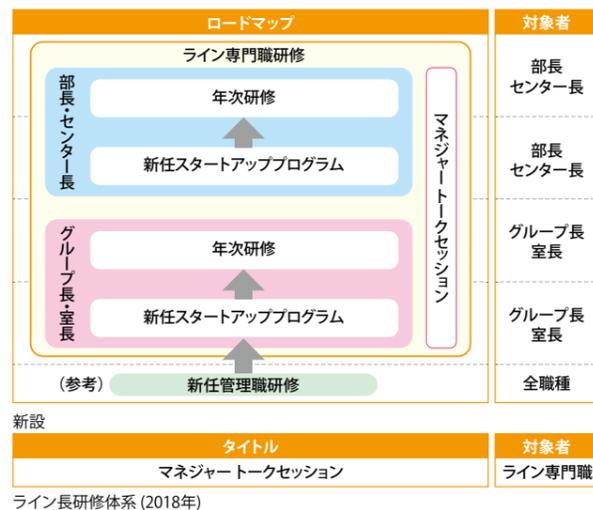
## 新任ライン長スタートアッププログラム

ビジネス環境が目まぐるしく変化中、お客様に信頼されるパートナーとしてあり続けるためには、社員一人ひとりがこれまで以上にレベルアップしていかなければなりません。そのためには、社員自身の自己研鑽はもちろんのこと、ライン長がリーダーシップを発揮して、部下を適切に育成・サポートしていくことが重要です。当社では全ライン長を対象とした年次ライン長研修に加え、新任ライン長に対するスタートアッププログラムを拡充し、ライン長のマネジメント力強化を図っています。

当プログラムでは、初めて部下を持ったグループ長・室長にとって今日からでも必要となる知識を、社内の実事例を教材に、各分野の第一人者であるベテラン社員が講師となって、少人数制のインタラクティブな形で提供しています。

さらに、ライン長が抱えている部下の指導・育成上の悩みや課題について、ライン長自身の経験や社内事例を通して、解決につながるヒントを共有しあい、明日からのマネジメントに活かすことを狙いとして参加者同士が気楽に話し合う座談会(マネジャートークセッション)を新たに開始する予定です。

今後も当社中期経営計画の要である人材育成に取り組んでいきます。



# 社員と組織の絆を深めるために

## KWC (KOBELCO SYSTEMS Work-life-balance Community)

「KOBELCO SYSTEMS Work-life-balance Community (略称: KWC)」は、「社員が自らイキイキと働き続ける会社」をビジョンに、ワークライフバランスに着目した全社横断の自主活動を展開しています。

昨年は「働き方の最終GOAL」を社員一人ひとりが考えるための機会創出」という活動テーマのもと、小集団活動(イキイキワーク)の全社展開を提言しました。

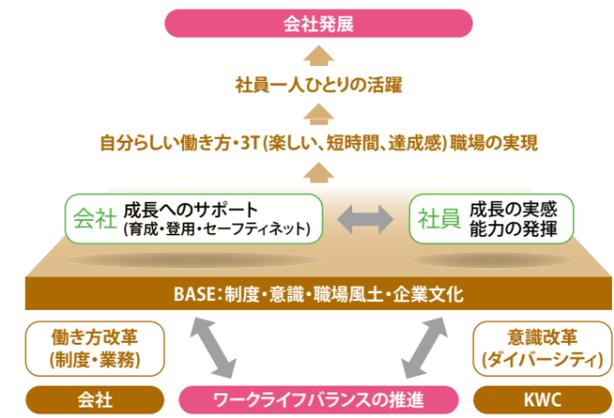
またKWCでは、年に1回、ワークライフバランスについて考える全社フォーラムを開催しています。昨年のフォーラムでは、「Set a GOAL for myself」と題して、「イキイキ働くとは?」というテーマで参加者同士で話し合いました。



KWCフォーラム

ワークライフバランスを実現するためには、制度や仕組みを充実させることに加え、社内のノウハウを共有したり、社員間の絆を強くすることが大変重要です。

今後も、KWCを触媒として、社員一人ひとりのワークライフバランス実現をサポートしていきます。



### 2016年度 KWCリーダーの声 (2016年5月～2017年3月)

2016年度の活動テーマ検討にあたっては、前年度KWCメンバーが作成した「働き方ロードマップ」をもとに、ロードマップの最終ゴールである「イキイキと働く」という部分に着目しました。

「イキイキって人によって定義が違うのでは?」「まずは一人ひとりの「イキイキ」を共有する場を創りたい」などの意見のもと、社員それぞれの働き方の最終ゴール(目指す姿)を話し合う場(イキイキワーク)の創出を提唱しました。

ワーク内容は、「仕事を通して、どういうときにイキイキできるか?」を職場のメンバーと話し合うというシンプルなもの。ワークについては、まずはメンバーそれぞれが自部署で

トライアル実施し、またフォーラムの場でも参加者の皆さんに取り組んでもらいました。フォーラム当日は活発な意見交換を通じ、「『もっとイキイキしたい!』という気持ちが高まった」、「メンバー間の考えを共有できて有意義だった」という前向きな意見をもらえました。

社員一人ひとりがイキイキと働ける職場風土を醸成するためにも、ぜひご自身の目指す働き方について、考えてみていただきたいと思います。

システム事業部 SO本部 第4サービス部 機械システム室 森下 真一さん



## ノー残業デー

コベルコシステムでは2016年から、働き方改革の一環として毎週水曜日を全社一律の「ノー残業デー」とし、定時退社を促しています。ノー残業デーは以前も設けていたのですが、形骸化していたため、2016年のKWCメンバーの提言により、取り組みを復活させました。

社長からの全社員へ向けたメール発信をはじめ、運用ガイドの周知や啓蒙ポスターの掲示、社員の生の声による定時退社を促す館内放送など、工夫を凝らしながら地道に取り組みを進めています。

社員の皆さんからは、「水曜日は家族と過ごす時間が増えた」、「最近は何とか定時までに終わらせよう意識しながら仕事を進められるようになった」など、効果を感じられる声もあがってき

ています。今後も形骸化させることのないよう、いろいろな施策を考えていきます。

当社の働き方改革の最終ゴールは、健康でイキイキと働くことです。その第1ステップとしてノー残業デーの定着を図り、いずれは育児・介護の両立など、個別事情に応じた柔軟な働き方を実現させていきたいと考えています。



ノー残業デー運用ガイド



ノー残業デーポスター

# 環境保護活動

## 「森の世話人」活動

コベルシステムが本拠を置く神戸は、シンボルである六甲山の自然に恵まれ、地域社会全体で六甲山の自然を守り育て、親しみ、そして愉しんでいます。

コベルシステムでは、国土交通省近畿地方整備局六甲砂防事務所、兵庫県、関係4市が推進する防災事業の六甲山系グリーンベルト整備事業に「森の世話人」として参加し、六甲山の前山の金鳥山(神戸市東灘区)南側に広がる森林を「Kocoroちゃんの森」と名付けて整備しています。

主な活動は、他の植物の生育を妨げるネザサの刈り取り、腐朽木や外来樹種の伐採、常緑樹の間伐、落葉広葉樹の植樹などです。活動に際しては、NPO法人「六甲山の自然を学ぼう会」のサポートを得て森づくりを行っています。

2010年から活動を開始し、50~60人規模の活動を年3回、

その間に10人前後の規模の維持活動・準備活動を年間10回程度実施しています。

2017年は秋に二つの大きな台風に見舞われ、「Kocoroちゃんの森」においても、強風により何本もの老木が倒れたり、天候不良による活動の延期などを経験しましたが、あわせて15回の活動を実施、森林の維持・改善に努めています。また、「Kocoroちゃんの森」の休憩所に設置されていた老朽ベンチの残りを撤去して3脚のベンチを設置し、ハイカーや登山客の皆さんにご利用いただいています。

2017年も多数の落葉広葉樹(ヤマザクラ、イロハモミジ、コナラ)の植樹を行いました。2018年も引き続き、ネザサ刈りや伐採・間伐とともに落葉広葉樹の植樹を行い、土砂災害に強い森づくりを実施していきます。



コベルシステムの自然保護活動イメージキャラクター Kocoroちゃん

※第12回アニメーション神戸協賛事業として公募



植樹



森林整備作業



台風で折れた枝の解体作業



ベンチ組み立て作業



ベンチの設置作業



「Kocoroちゃんの森」の休憩所からの眺望

※コベルシステムの「森の世話人」活動の活動報告は、国土交通省の以下のページに掲載されています。

[http://www.kkr.mlit.go.jp/rokko/pr\\_media/plant/group/company/kobelco.php](http://www.kkr.mlit.go.jp/rokko/pr_media/plant/group/company/kobelco.php)



# 社会貢献・地域貢献活動



## トライサイエンス実験教室への参加

コベルシステムの東京本社では、日本IBMが実施する地域貢献活動にグループ企業として参加しています。

日本IBMでは、さまざまな社会貢献活動を実施していますが、

その中の、科学技術館で開催されている「トライサイエンス実験教室」という子ども向け科学実験教室のボランティアに有志の社員が参加し、子どもたちと科学実験を楽しんでいます。

### トライサイエンス実験教室 参加者の声

トライサイエンス実験教室は、子どもたちが身近な道具や材料をつかって科学に親しみや興味をもって学んでもらうためのボランティア活動です。

東京では千代田区の北の丸公園にある「科学技術館」で2か月に1回、日曜日に実施されており、日本IBM社員のボランティアの皆さんと一緒に活動しています。

教室のお手伝いでは、一生懸命になって実験に向きあう子どもたちから、柔軟な発想や、チャレンジする姿勢など学ぶことも多く、とても楽しく参加させていただいています。

また、一緒に活動する皆さんはとても親切で優しいので、わが家も親子で参加して科学の楽しさとボランティアの貴重な体験を家族で共有しています。

産業ソリューション事業部  
インダストリーソリューション本部  
技術開発センター  
品質管理グループ 中村 尚人さん(右)



親子で楽しくボランティア

## 留学生インターンシップ受け入れ

コベルシステムでは、地域貢献活動の一環として、2008年から兵庫県内の大学に在籍し、日本での就職を希望する外国人留学生のインターンシップを受け入れています。

日本企業で働きたい留学生を教育の一環として継続的に受け入れることによって、地域でグローバルの輪を広げることに貢献

しています。同時に、異文化を学び、社内のグローバル化への適応力を養い続けています。

また、2017年の「ひょうご留学生インターンシップ」に協力したことにより、主催者の大学コンソーシアムひょうご神戸様から感謝状をいただきました。

### ■主な受け入れ元

- 2008年 10人 経済産業省「アジア人財資金構想」
- 2009年 8人 経済産業省「アジア人財資金構想」
- 2010年 5人 ひょうご大学連携協議会
- 2011年 8人 大学コンソーシアムひょうご神戸
- 2012年 10人 大学コンソーシアムひょうご神戸
- 2013年 8人 大学コンソーシアムひょうご神戸
- 2014年 10人 大学コンソーシアムひょうご神戸
- 2015年 6人 大学コンソーシアムひょうご神戸
- 2016年 10人 大学コンソーシアムひょうご神戸
- 2017年 6人 大学コンソーシアムひょうご神戸



## 学生向けデータセンター見学会

コベルシステムでは、データビジネスを行っていることから、大阪情報コンピュータ専門学校様からデータセンターへの見学会依頼があり、データセンター見学会、およびSEやオペレータの業務の説明、勉強・取得しておくべき資格などの質疑応答などを実施しました。

また、この対応に対し、大阪情報コンピュータ専門学校様から感謝状をいただきました。



大阪情報コンピュータ専門学校 校長 原辺隆吉様(左)、当社社長 田野(右)



CSRの取り組みについて

お客様とともに

ビジネスパートナー様とともに

社員とともに

地域社会とともに

# 社会貢献・地域貢献活動

## アビリンピック支援

アビリンピック(全国障害者技能競技大会)は、独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構が主催し、障がいを持つ人々が日頃培った技術を競うことで職業能力の向上を図り、企業をはじめ社会の人々に障がいのある方々に対する理解と認識を深め、その雇用を促進することを目的に開催されています。

コベルコシステムは2003年以来、技能競技種目である機械CADと建築CADの環境設定や当日のヘルプデスク業務を担当しています。



競技風景

競技をサポートする社員

## その他の社会貢献・地域貢献活動

### ■スポーツ振興協賛

NPO法人スポーツ・コミュニティ・アンド・インテリジェンス機構(SCIX)に協賛しています。

### ■地域イベントへの協賛

寄付や協賛を通じ、地域の伝統や文化の維持に貢献しています。

- 神戸まつり
- 神戸ルミナリエ

### ■大学の特別講義への講師派遣

流通科学大学経済学部の情報コミュニケーション特別講義に、社員を講師として派遣し、CSRについての講義とコベルコシステムのCSRへの取り組みを紹介しました。

### ■芸術への協賛

公益社団法人大阪フィルハーモニー交響楽団に協賛しています。

### ■兵庫県警へのサイバー犯罪捜査官の派遣

高度化するサイバー犯罪に対応するために、兵庫県警察へ、サイバー犯罪捜査官として社員を派遣し、IT捜査技術の向上に貢献しています。

### ■兵庫県警へのサイバーテクニカルサポーターの派遣

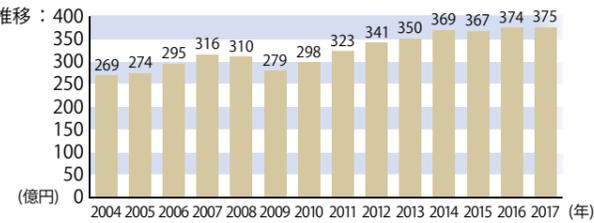
兵庫県警察本部から委嘱を受け、テクニカルサポーターとして社員を派遣し、サイバー犯罪に対応するためのIT捜査知識・技術の向上に貢献しています。



## 会社プロフィール

会社名称：コベルコシステム株式会社  
 創立：1983年10月1日  
 (神鋼コンピュータシステム株式会社として発足)  
 設立：1987年7月1日(コベルコシステム株式会社に商号変更)  
 代表者：代表取締役社長 田野 美雄  
 株主：日本アイ・ビー・エム株式会社 51%  
 株式会社神戸製鋼所 49%  
 資本金：4億円  
 社員数：1,085人(2018年1月1日現在)  
 関連会社：コベルコソフトサービス株式会社  
 本社：〒657-0845  
 神戸市灘区岩屋中町4丁目2番7号(シマブンビル)

URL：http://www.kobelcosys.co.jp/  
 売上高：375億円(2017年度)  
 売上高推移：400



事業所：



## 沿革

2017年：会社設立30周年 記念行事を開催  
 日本IBMグループ統一ISMS認証取得(SO本部)  
 2016年：IoTビジネスセンター 設立  
 東京本社リニューアル  
 2015年：「コベルコシステム クラウドインテグレーションサービス」開始  
 事業部制導入  
 2014年：SAP導入テンプレート「HI-KORT」のクラウドサービス開始  
 本社「近畿ニューオフィス コミュニティ賞」受賞  
 ISMS(情報セキュリティマネジメントシステム)永年登録表彰  
 2013年：本社移転  
 「プライバシーマーク制度貢献事業者」として表彰  
 2011年：中国・北京で開催された「SAPPHIRE NOW in Beijing」に出展  
 2010年：クラウドサービスセンター 設立

2009年：次世代育成支援対策推進法認定マーク(くるみん)取得  
 「秘伝のタレ®」「秘伝のワザ®」を商標登録  
 2007年：全国企業品質賞にて大賞受賞(栃木県経営品質協議会主催)  
 2006年：東京事業所を東京本社と改称  
 全国企業品質賞にて最優秀賞受賞(栃木県経営品質協議会主催)  
 2005年：AMS(®)センター 開設  
 2004年：IPセントレックス・IPコミュニケーション事業に進出  
 2003年：ISMS認証取得(ICT本部)  
 2002年：アウトソーシング事業を強化 日本IBMの資本参加  
 2000年：プライバシーマーク(個人情報保護)の認定取得  
 1999年：ASP事業の本格的な展開を開始  
 ISO9001認証取得

※ AMS: Application Management Service SAP社のERPパッケージをベースとした基幹システムの、本番稼働後の安定稼働や運用技術支援、業務の定着化を支援するサービス

## 編集後記

最後までお読みいただき、まことにありがとうございました。  
 レポートはそれぞれの分野の担当者が、できる限りわかりやすく伝えることを心がけて執筆しました。  
 また、記載の内容をより深くご理解いただくために図や写真を多用し、かかわった社員の声を数多く記載しています。  
 コベルコシステムのCSR活動に対する皆様のご理解が深まり、親近感を覚えていただけましたら幸いです。  
 今後もさらにCSR活動を強化し、ステークホルダーの皆様と“ともに”の姿勢で取り組んでいきます。

ご意見・ご感想は、当社ホームページ「その他のお問合わせ」からお願いいたします。

<https://www.kobelcosys.co.jp/inquiry/other/>



コベルコシステム株式会社 経営企画部 CS・CSR推進グループ  
 〒657-0845 神戸市灘区岩屋中町4丁目2番7号 シマブンビル10F TEL: 078-261-6001 FAX: 078-261-7520



## 取得済の認証・認定・許可



■ISO9001通用部署：  
 産業ソリューション事業部・システム事業部  
 システムビジネス本部・システム事業部  
 ICT本部・システム事業部 SO本部製造システム部  
 ■登録活動範囲：  
 製造業、流通業及びその他の産業向け顧客要求事項に基づくソフトウェアの設計・開発・製造及び付帯サービス(教育、移行支援及び瑕疵対応)



■登録組織：システム事業部 ICT本部  
 ■登録範囲：インフラソリューションサービスの提供  
 ■規格：JIS Q 27001:2014 (ISO/IEC 27001:2013)  
 ■登録番号：JSAI 003  
 ■有効期限：2021年4月20日  
 ■登録認証機関：一般財団法人 日本規格協会



## 日本IBMグループ統一認証



■認証範囲：IBMシステム受託サービスにおけるアプリケーション開発・保守サービスの提供  
 ■規格：ISO/IEC 27001:2013  
 ■認証番号：IND16.0652U-18R  
 (この認証書はIND16.0652Uの一部を構成するものです)  
 ■有効期限：2019年11月15日  
 ■登録認証機関：ビューローベリタスジャパン株式会社

兵庫県知事許可一般建設業(電気通信工事業)  
 [許可番号/(般-27)第114641号]